

第2回

御坊市介護保険事業計画策定委員会

- 資料
1. 御坊市の今とこれから
 2. 御坊市の2040年を見据えて

令和5年10月25日(水)
御坊市介護福祉課

介護保険事業計画の位置づけ

第5次御坊市総合計画（令和3～12年度）

その他の
関連計画

教育

住宅

交通

環境

御坊市地域福祉推進計画（令和4～8年度）

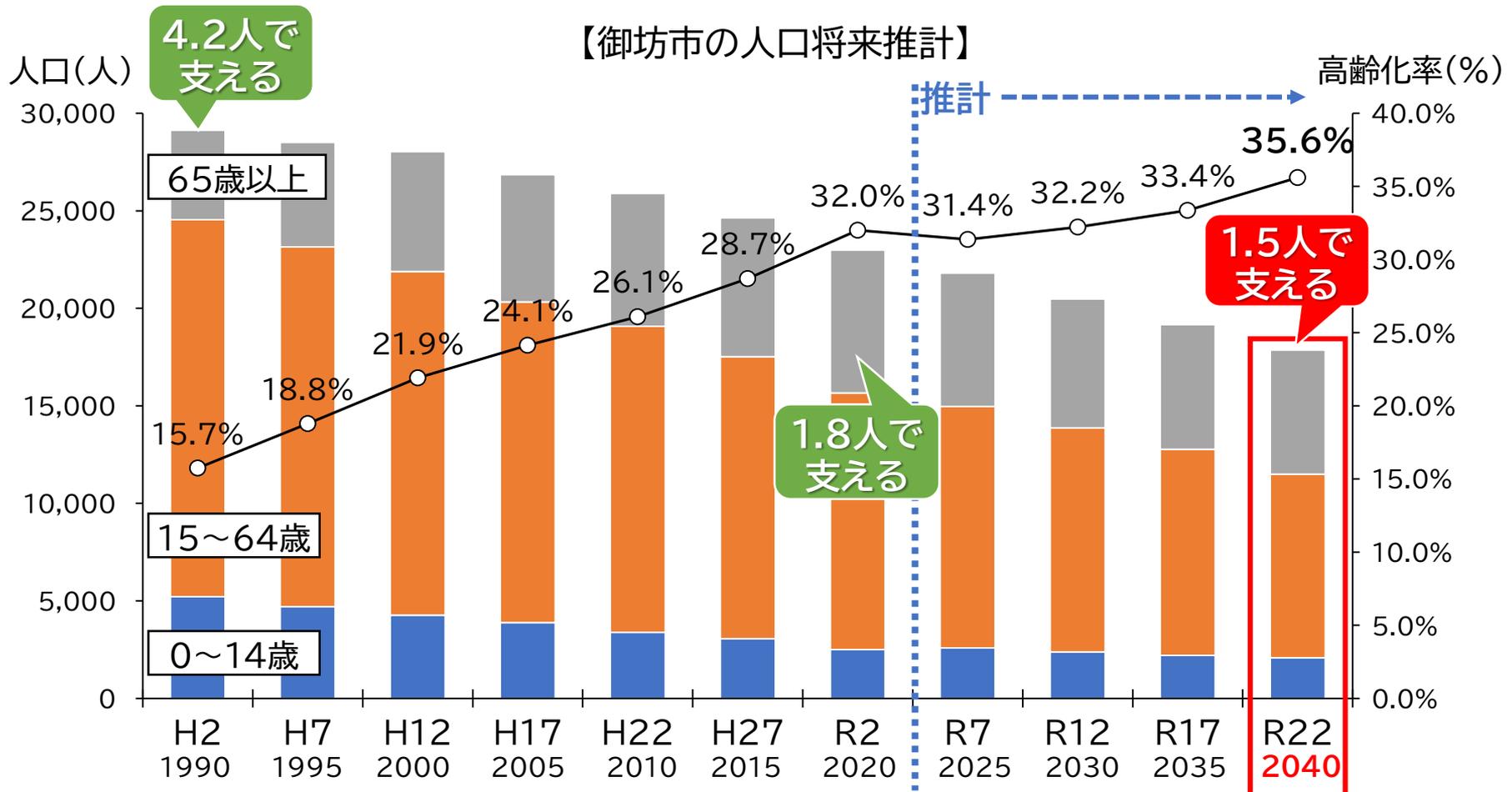
第9期御坊市介護保険事業計画
（令和6～8年度）

認知症施策推進
基本計画
（令和6～8年度）

1. 御坊市の今とこれから

御坊市の今とこれから

- 2040年、2.8人に1人が高齢者
- 現役世代1.5人で高齢者1人を支える時代

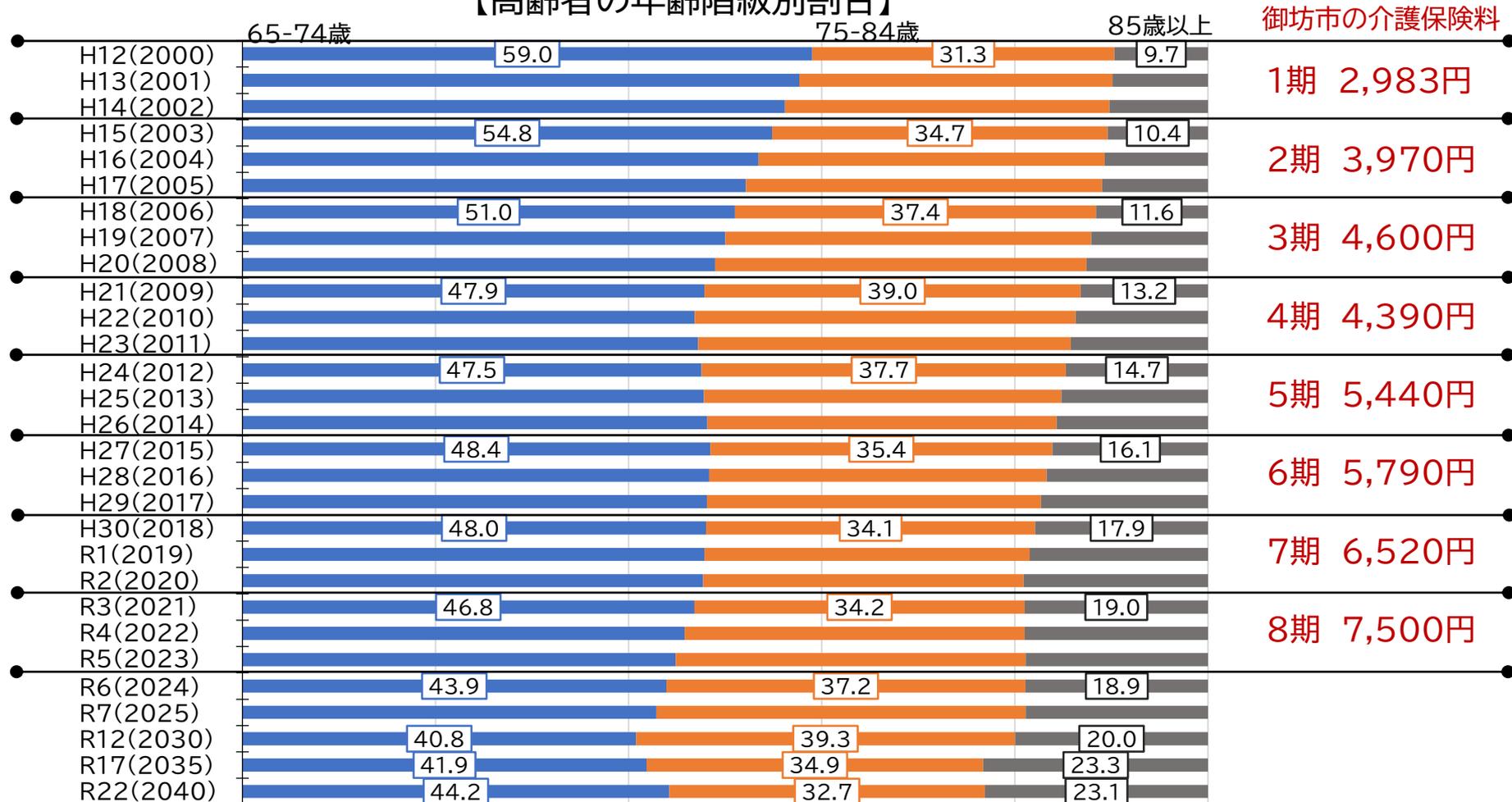


(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30)年推計」より
2020年は国政調査、以降2015年を基準とした各年10月1日現在の推計値

高齢者の5人に1人は85歳以上

- 複数の慢性疾患をもち、要介護状態になりやすい
- 孤立化しやすく、生活に支障が出やすい

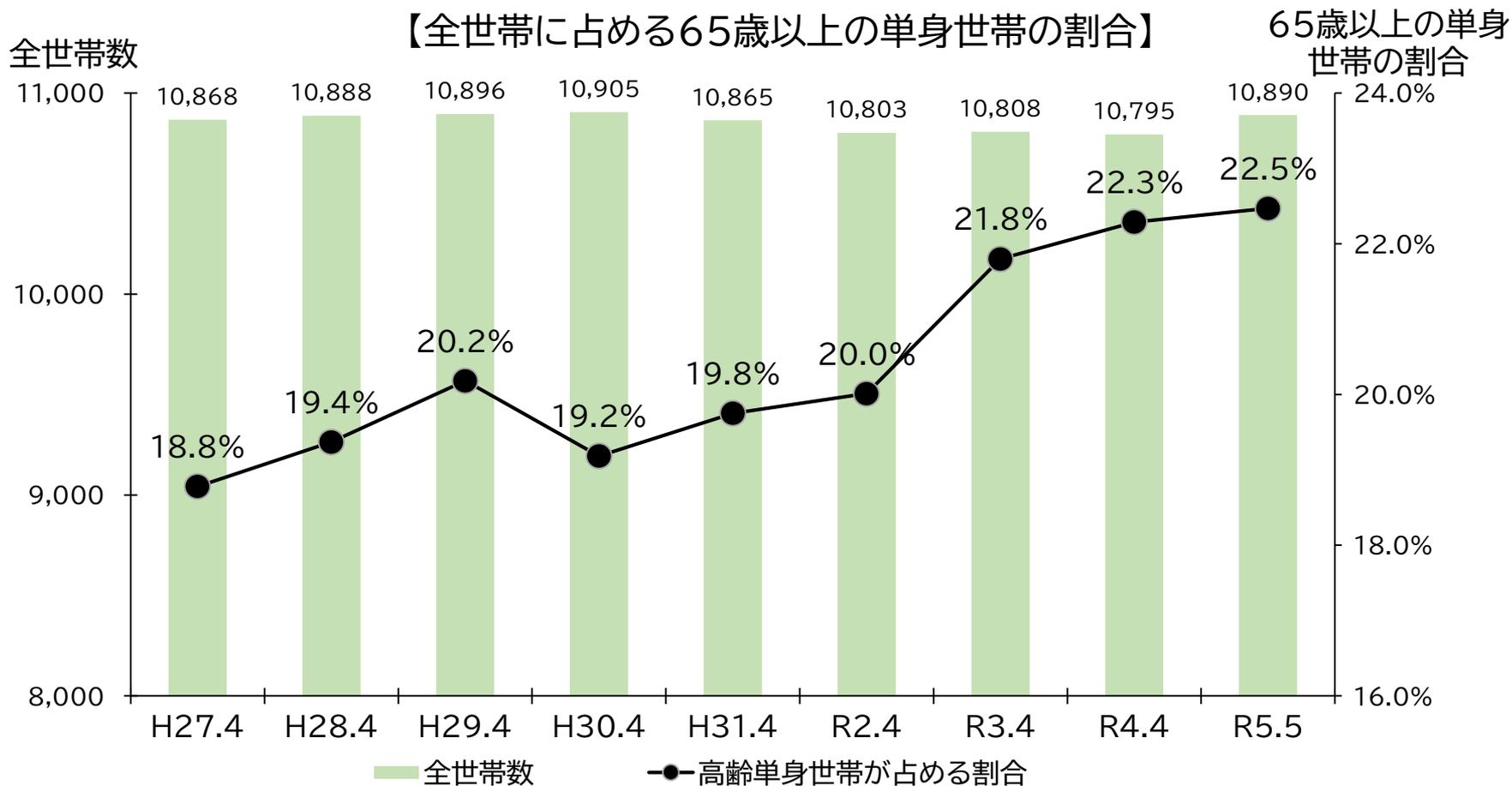
【高齢者の年齢階級別割合】



(出典) 総務省「国勢調査」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に作成

4世帯に1世帯は高齢のひとり暮らし

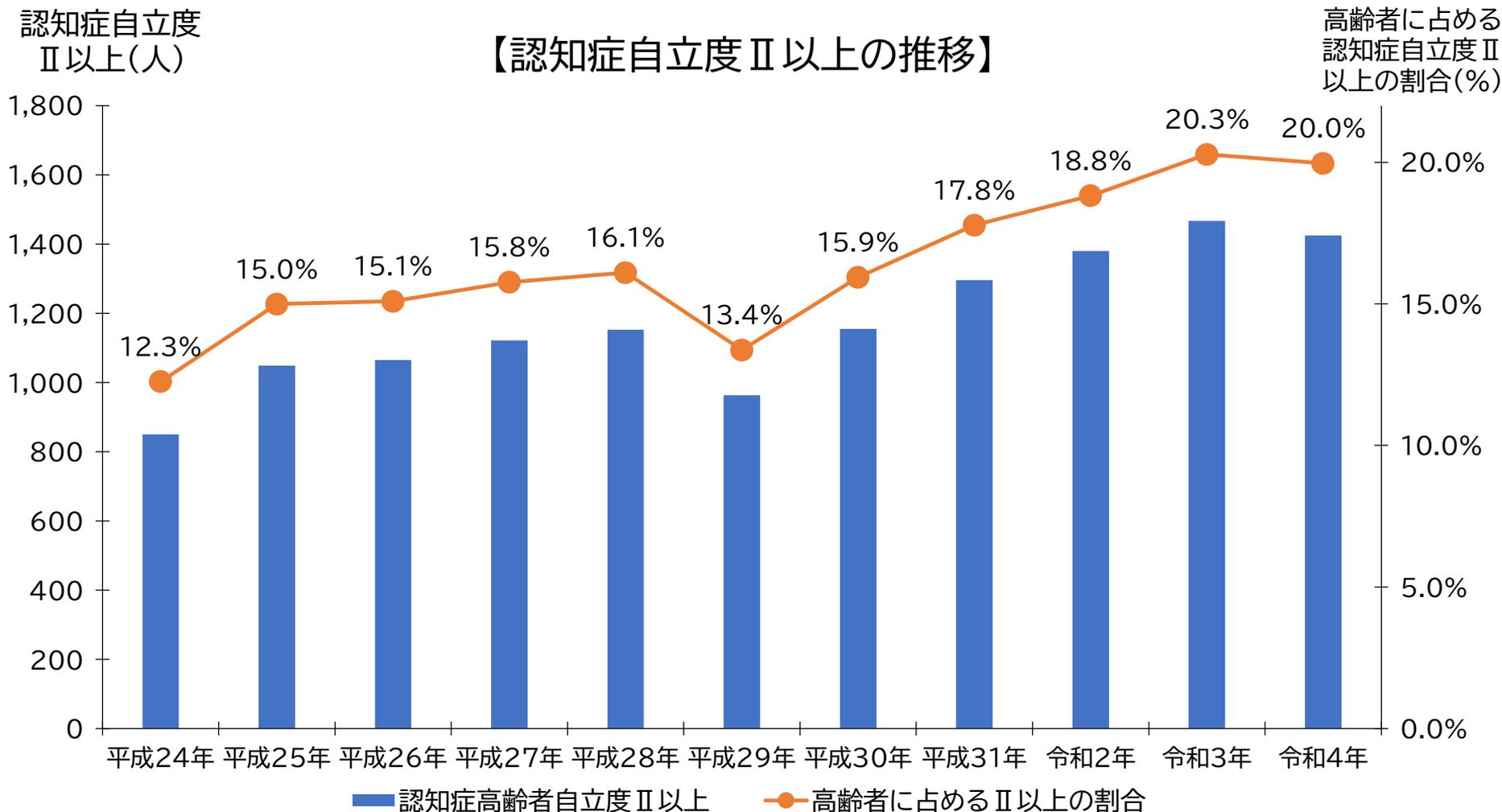
- 人口減少でも世帯数は変わらず
- 全世帯の4世帯に1世帯は高齢者のひとり暮らし



(出典) 全世帯数は住基データ, 単身世帯数は包括作成データを基に作成

高齢者の5人に1人が認知症

● 高齢化に伴い、認知症自立度Ⅱ以上が増加



(出典) 認知症高齢者自立度Ⅱ以上は各年4月末データ

高齢者人口は総務省「国勢調査」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に算出

【参考】認知症高齢者の日常生活自立度

- 高齢者の認知症の程度を踏まえた日常生活自立度の程度を表している。
- 要介護認定では認定調査や主治医意見書でこの指標が用いられ、要介護認定における、一次判定や介護認定審査会における審査判定の際の参考として利用されている。

| ランク | 判定基準 | 見られる症状・行動の例 |
|-------|--|--|
| I | 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。 | |
| II | 日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。 | |
| II a | 家庭外で上記IIの状態が見られる。 | たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等 |
| II b | 家庭内でも上記IIの状態が見られる。 | 服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等 |
| III | 日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。 | |
| III a | 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。 | 着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等 |
| III b | 夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。 | ランクIII aに同じ |
| IV | 日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。 | ランクIIIに同じ |
| M | 著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。 | せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等 |

2040年の御坊市



2.8人に1人が高齢者



高齢者の4.3人に1人は85歳以上



高齢者1人を1.5人の現役が支える



**暮らしを支えるニーズの増加と
担い手不足**

2. 御坊市の2040年を見据えて

2.8人に1人が
高齢者

現役世代1.5人で
高齢者1人を支える

2040年

高齢者の
4人に1人が
認知症？

少子化による急速な人口減少と、
団塊ジュニア世代が65歳以上となり
高齢者人口がピークに達することで、
社会保障制度が危機を迎える？

2040年の未来はどうなっている？

あなたは
何歳ですか？



2040年の未来はどうなっている？



あなたは どうありたいですか？



2040年の未来はどうなっている？



そのためには
何が必要ですか？

